平成30年市町村広報コンクール審査票（市部）

○広報紙の名称「広報まえばし　12月1日号」

評価された点
【表紙】 ●赤城山を模した？「M」の題字もセンスを感じさせる。 【特集】 ●赤城南麓に暮らす「南麓人」に焦点を当てて、幸せのカタチを考える特集は読み応えがあった。切り口といい、文章や写真といい、レイアウトといい、さすが広報のプロと感じさせる出来栄えだった。見出しに方言を使うことで親しみやすく、サインを自筆にすることで登場人物の本気度が感じられた。ちょっとしたことだが、大きなポイントになった。 ●文章もいいが、写真は全広報の中で際立っていた。表紙の牛の写真もいいし、２、３面のカマンベールチーズだろうか、ただのチーズをこれだけ大きく使う大胆さがいい。刀工や調理人の写真で、カメラ目線になっていないのもよかった。 ●写真の使い方、レイアウトデザインにメリハリがあり、統制が取れていて読みやすい。赤城南麓という自然豊かな土地で、地に足をつけた人々の暮らしの息吹が伝わってくる。新たな移住者も紹介している点も評価できる。 ●赤城山南麓にスポットを取り上げた特集記事は、そこに住む市民を主役にしており広報誌を身近なものにしている。 【その他】 ●「いきいき前橋人」や「赤城の恵みブランド」も、箸休め的に気軽に読めていい。 ●デザインがダサくない。表紙は一見、市の広報に見えない。これなら例えばカフェにも置いてもらえそうだし、手にとってもらいやすいだろう。いいデザインを可能にしたのが企画。前橋の新しいライフスタイルや知られざる底力を紹介している。どういう街にしたいのかという意思が伝わってくる。 ●全体的にレイアウト、写真の選択が凝っており、手に取って見てみようと思わせる内容。特に若い市民への訴求力が感じられる。 ●「HEADLINE」「くらしの情報」の告知のページでは、文字数を極力抑えて必要最低限の情報を提供しており、今回エントリーしてきた広報誌の中では一番読みやすかった。 ●「くらしの情報」は、行間の広さと文字の大きさが相まって、読みやすい。

平成30年市町村広報コンクール審査票（市部）

○広報紙の名称「広報みどり 11月2日号」

評価された点
【表紙】 ●シンプルながら、なぜか印象に残る表紙がよかった。古くさいという見方もあるかと思うが、レトロ感漂う表紙は題字の字体と相まって独特の趣と味わいがあるように思えた。 【特集】 ●「ながめ余興場」の出来が秀逸だった。単に過去を振り返るだけでなく、現在から未来へと「地域のお宝」を大事に残し、活用していこうとする市挙げての姿勢に共感した。支えてきた「黒子の会」にスポットを当てたのもよかった。決して嫌々携わるのではなく、遊び心を持って、楽しく活動している様子がうかがえた。梅沢富美男さんを招いたときの苦労話や永六輔さんから上演の指導を受けたエピソードを読み、改めて余興場の存在意義を知らされた思いだった。 ●レイアウトもよく計算されている。表紙に余興場の外観、めくった２面に幕開けを待つ緞帳を大きく使い、前文をうまくかませていた。舞台と同じように第一幕から最終幕へと展開したのもテンポよく読ませるいい工夫だった。 ●「ながめ余興場」は、第１幕～最終幕という見出しの立て方も気がきいており、編集者の意気込みを感じる力作だった。レイアウトも上段に写真を集め、下段に文章を流すという読みやすさのための工夫がみられる。特集と銘打つからには、これくらいのボリュームが望ましい。 ●みどり市のシンボル、ながめ余興場が巻頭特集。関係者の座談会を企画するなど、丁寧に作っている。地元の魅力を知ってもらう、というと観光ガイドのようだが、市民に対しても案外重要なことではないだろうか。うまく説明できないが、自分の街が好きなら、やたらにごみも捨てないし、他人にも親切になる。つまり市民の力でいい街になっていくだろう。 ●特集「ながめ余興場」は表紙を含め多くの紙面を割き、地元の文化財＝宝を丁寧に伝えようしている。 【その他】 ●名所案内、桐生大学食堂とのコラボ企画、その他の必要情報もきちんと網羅されている。 ●名所探訪やブランド紹介も地域愛を高める企画として評価したい。探訪で市民ガイドを活用したのもいいアイデアだ。 ●「イベントガイド」のページは、背景などの色を柔らかい色調に変えてメリハリがついている、色の選択も良い。

平成30年市町村広報コンクール審査票（市部）

○広報紙の名称「広報高崎　11月15日号」

評価された点
【特集】 ●世界記憶遺産への登録を記念した「上野三碑」は力作だった。巻頭インタビューから三碑の紹介、ボランティアや見学者の声と多角的にとらえた。「かかあ天下は古代から」など、分かりやすく解説しており、知名度が低かった三碑を身近に感じた市民もいたのではないか。イラストや写真の使い方もうまかった。黄色の文字は賛否が分かれるかもしれないが、個人的にはよかったと思う。 ●上野三碑はタイムリーな企画であり、レイアウトデザインや写真の使い方もダイナミックでよかった。内容も、これまで三碑を知らなかった人にも十分理解しやすくできている。古碑・塔の関連情報（表）を載せているのもよかった。 ●どこから見ても平均点を超えている。構成がいいと思ったのは「上野三碑」のところで、上段は歴史的価値の説明、下段はシャトルバスなどの実用情報や地元の声などが記されていて、いちいちページをめくらなくても分かりやすい。 ●今年「世界の記憶」に登録された「上野三碑」の特集記事は、三つの碑の特徴などについて分かりやすく丁寧に説明されおり保存版としても使えそうな内容。また、ボランティアなど当地の取り組みの記事はさりげなく配されていて主役を邪魔していない点も良かった。 【その他】 ●「しみんガイド」は高崎市が一番見やすい。必要事項をコンパクトにまとめているのに加え「出張理美容サービス」や「晩秋の観音山丘陵を歩く」といった重要な告知は記事を横打ちにし、なおかつ囲みにするなど、メリハリがあっていい。 ●「しみんガイド」のページでは、市民が興味を持ちそうな記事を囲みにするなどメリハリをつけており見やすい。 ●「タカサキッチン」はタイトルのネーミングもよく、箸休め的な存在として評価できる。衣食住（とりわけ近年は食）に関わる記事はよく読まれる。当番医の色分けも一目で担当科が分かり、工夫がうかがえた。